



日本のふるさと
遠野まつり実行委員会 会長
遠野市長 多田 一彦

● インタビュー

私が幼少の頃の遠野まつりは、1日目が市街地を練り歩き、2日目が遠野郷八幡宮へ行くという現在のスタイルがすでにできあがっていました。当時は沿道からあふれるほどの人混みだったことを今でも鮮明に覚えています。

あれから数十年が経過し、今年で遠野まつりは50周年を迎えます。時が経っても昔から変わらない形で、しし踊りの演舞、笛の音、神楽、さんさなどが継承され、まさに遠野の魂が現代まで受け継がれていると感じています。

令和2・3年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。それでも遠野の魂は、次の世代につなげたいと思います。そのために、コロナ禍でも安心安全に楽しめるように準備を進めています。本市最大のイベントとなる遠野まつりは、市民のみなさま、遠野まつりファンのみなさまと一緒に楽しめるまつりにしたいと思います。

遠野まつり

No. 5
10月まで連載

「日本のふるさと遠野まつり」(同実行委員会主催)は今年、50周年の節目を迎えます。今月は、「遠野まつり」の開催についてお知らせします。



2022年日本のふるさと遠野まつりポスター(内容は、今後変更となる場合があります)



遠野まつり公式サイトで、各保存会の特徴などを紹介しています。

キラッと、遠野人。

県中学校総合体育大会

遠野中サッカー部、2連覇



連覇を果たした遠野中サッカー部の皆さん

県中総体サッカー競技は7月16~18日、遠野運動公園と遠野市民サッカー場を会場に開かれました。遠野中サッカー部は決勝で久慈中を5対0で破り、2大会連続12回目の優勝を飾りました。

試合は序盤から動き、前半4分にコーナーキックから主将・菊池陽頼さん(3年)が頭で合わせ先制。勢いをつかむと、その後も中盤からパスをつなぎ、ゴールを量産しました。主将・菊池さんは、「久慈中は去年の新人戦で負けた相手。意識しながら試合に入ったが、最初の1点目がペースを作るきっかけになった。東北大会も勝って全国大会へ進みたい」と意気込みを語りました。

1年1,500m、県頂点



菊池恵愛さん
(遠野中1年)

県中総体陸上競技が県営運動公園陸上競技場で行われ、中学1年女子1500mの部で菊池さんが5分2秒49のタイムで県優勝を果たしました。

レースは、後半大混戦。1位から3位まで0.5秒差でのゴールでした。「残り100mが苦しかったけど、最後の最後まで頑張ろうと自分に言い聞かせた」と振り返りました。

遠野緑峰高

2プロジェクト・1個人「県最優秀賞」

7月12・13日に盛岡農業高で行われた同大会で遠野緑峰高の生徒が県最優秀賞を受賞しました。

最優秀賞は、▷エゴマを使った新たな商品開発を考案した野菜果樹研究班▷校内アンケートの内容を発表した農業クラブ役員2年生▷情報処理技術で速さと正確さを競った佐々木渚さん——の2部門1個人。8月に行われる東北大会へ進みます。

野菜果樹研究班の佐々木萌叶さんは「審査員に伝わるような発表を東北大会でも実践したい」と話し、農業クラブ役員の佐藤亜胡さんは「わかりやすく誰にでも伝わるよう内容を見直したい」と意気込みました。佐々木さんは「練習の成果を発揮することができた。次はもっと早く正確に取り組みたい」と振り返りました。



上⑥ 野菜果樹研究班【後列左から】菊池健翔さん、菊池怜雅さん、菊池潤さん、似田貝翔さん【前列左から】佐々木萌叶さん、瀬川愛瑠さん、菊池凜星さん、細川雛さん

上⑥ 農業クラブ役員2年生【後列左から】菊池奈々美さん、佐々木遙玲さん、村澤由菜さん【前列左から】佐藤亜胡さん、菊池瑞姫さん、山口夢夏さん



情報処理部門
佐々木渚さん(3年)